

第3章 観光まちづくりの必要性

～「まち歩き」をまちづくりに活用～

目黒区は、近年広がりを見せ始めている都市観光の動きを鋭敏に捉え、区民をはじめ、さまざまな目的で区を訪れる多くの人々がもたらす「まち歩き」の効果を、活力と魅力あるまちづくりにつなげていくため、観光まちづくりを進めていく必要があります。

(1) 観光は、まちづくりの重要なキーワード

21世紀は「観光の時代」とも言われています。国は平成24年3月に「観光立国推進基本計画」を策定しました。また、東京都では平成29年までに年間1,000万人の外国人旅行者の誘致を目指す計画として、平成25年5月に「東京都観光産業振興プラン～世界の観光ブランド都市・東京をめざして～」を策定しました。さらに、全国各地の自治体では、近年、観光による「まち再生」の取組が広がってきていますが、いずれも、その地域の文化や産業などを観光資源として生かし地域経済の活性化やまちの活性化を図ろうとするものです。

(2) 目黒区と観光

目黒区はこれまで、どちらかといえば、観光とはあまり縁のないまちとして考えられてきました。それは、観光を、名所旧跡や、景勝地、温泉地、テーマパーク、アミューズメント施設などを訪れる、「日常の対極にあるもの」として捉える従来型の概念が人々の中に深く浸透しており、結果として、区民や来訪者が、居住や経済活動の場が中心である目黒区を観光の場として意識しにくかったためと考えられます。

(3) 人々のニーズに合わせて広がりを見せる観光

近年、人々の価値観の多様化にともなって、生活の中での楽しみ方も豊かになってきました。観光の面においても、個々のニーズに合わせた多彩なかたちが生まれており、従来の単なる「物見遊山型」の観光から「体験型・滞在型」の観光へと広がりを見せてつあります。

さらに、近年、「まち歩き」といった地域密着型の「都市観光」がもうひとつのスタイルとして定着してきました。まち歩きは人々にとって、日常の延長として手軽に行えるメリットがあります。

(4) 観光という切り口で進める目黒区のまちづくり

人々が集い、にぎわいを形成することは、まちにさまざまな効用をもたらします。目黒区においても、顕在化してきた都市観光の潮流を、魅力あるまちづくりに生かしていく必要があります。

すなわち、目黒区においては、今後、これまで全国各地の観光地で進められてきたような観光産業振興的な観光政策ではなく、目黒区の地域特性を生かした、住む人にも訪れる人にも魅力が感じられるようなまちづくりを、観光という新たな切り口で進めることが、まちの活性化にとって重要な課題であるといえます。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに、海外や国内から目黒区に立ち寄った際に居心地の良さや快適性を感じていただけるよう、おもてなし（ホスピタリティ）を具体化していく必要があります。

